



撮影：鎌田卓也



ウズベキスタン・タシケント

内陸国の立地を生かす 現代版シルクロード

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



これはウズベキスタンの首都タシケント市の中心部の風景である。同市は古くからシルクロードの要衝として知られているが、公園と街路樹の緑があふれる町並みは、まさにオアシスを彷彿とさせる。

先進国が世界経済危機への対応に追われる中、同国の経済は比較的稳定した成長を続けている。昨年、国内総生産の伸び率は8・1%。財政赤字も保持している。これは主要産品である金や綿花、天然ガスの輸出が好調であることと、経済危機の際の財政出動によるものと言われている。

しかし、同国政府は一次産品依存からの脱却を図って、工業やサービス業への外資導入に力を入れる。

この8月には大韓航空グループが出資する国際航空貨物ハブが、同国の南西部に位置するナヴォイ市に開業した。この物流基地は、同国がヨーロッパと東アジア、ロシアと東南アジアのほぼ中間点にあることから、こうした市場間の物流を取り込むのが狙いである。将来は年間50万トンの取扱高を見込んでおり、これを「現代版シルクロード」などと呼ぶ向きもある。

海から離れ貿易港を持たない開発途上国の経済発展は、概して難しいと言われている。内陸国の立地を逆転の発想で生かしたこのハブ。これからの推移に注目したい。

